

第7回三原ふるさと子ども博士講座

ようこそ先輩！絵本作家永井郁子さん



平成27年10月12日（月／祝）に中央公民館で行われた「第7回三原ふるさと子ども博士講座」今年も講師として、絵本作家の **永井郁子** 先生にお越しいただきました。

永井先生の指導のもと、昔話『仏通寺のたきのだいじゃ』を10の場面に分け、それぞれのシーンにあった絵を考えて実際に絵を描くという本格的な絵本作りを体験しました。

永井 郁子 ながい いくこ

本郷町出身。

「わかったさんのおかしシリーズ」
「かいぞくポケット」など、多くの
絵本イラストを手がける。

2009年には三原市ふるさと大使
に任命され、三原の子どもたちの
ために精力的に公演を行っている。



『仏通寺のたきのだいじゃ』

むかしある山里に、働きもののおかあさんと、うつくしい娘が住んでいました。
ある日おかあさんが物置部屋をあけたところ、だいじゃがとぐろをまいて休んでいました。
この山の滝に住むだいじゃが、娘に化けていたのです。だいじゃは草むらに消えていきました。
それからしばらくして、村人の間に、滝に恐ろしいだいじゃが出るといううわさが広がりました。
ある日村に訪れた旅のお坊さんが、村人からだいじゃの話を聞き、滝のだいじゃを訪ねました。
お坊さんの強いお願いに、だいじゃは観念して、生まれ故郷の大津の湖に帰っていきました。
その日の夕方、森全体をくたくやうな大雨と雷が鳴りひびき、今まで森だった山の入り口は
すっかり洗い流されてしまいました。
そののちここに仏通寺が建てられ、村人達は安心して暮らせるようになりました。

講座のようす

